

IPEを合同で実施

医療系3学部の学生で



各学部の学生が混ざったグループで模擬症例への対応を討議した

京都薬大／京都橋大

京都薬科大学と京都橋大学は昨年12月21日、京都市山科区の京都薬大キャンパス内で多職種連携教育（IPE）を合同で実施した。医療系3学部28人の学生が小グループに分かれて模擬症例の問題点や支援策を討議し、職種によって視点が異なることやチーム医療の重要性を学んだ。

今回のIPEには、京都薬科大学薬学部の5年生8人、健康科学部理療法学科の4年生6人が、京都橋大学看護学部の4年生14人、健康科学部理療法学科の4年生6人が参加した。病院に救急搬送

されて入院し2カ月半後に退院した80歳代男性の模擬症例を題材に、同じ学部間の学生同士で編成された小グループで討議と発表を行った。

その後、各学部の学生が混ざったグループで約1時間半の討論を実施。他学部の学生と話し合うことで、各職種の視点の違いやチーム医療の重要性、共通目標を設定することの難しさなどを学んだ。

参加した学生からは「他職種がどのような観点で患者さんに関わっているのかを知り、新たな気づきがあった」「異なる視点をすり合わせることの難しさと同時に、患者さんの望みを生かすという共通目標を持って議論することの大切さを感じた」などの声が上がった。

IPEは2016年度から開催しているもので、今回が5回目。両大学は19年3月に、教育研究協力に関する包括協定を締結している。

今回のIPEには、京都薬科大学薬学部の5年生8人、健康科学部理療法学科の4年生6人が、京都橋大学看護学部の4年生14人、健康科学部理療法学科の4年生6人が参加した。病院に救急搬送されて入院し2カ月半後に退院した80歳代男性の模擬症例を題材に、同じ学部間の学生同士で編成された小グループで討議と発表を行った。

その後、各学部の学生が混ざったグループで約1時間半の討論を実施。他学部の学生と話し合うことで、各職種の視点の違いやチーム医療の重要性、共通目標を設定することの難しさなどを学んだ。

参加した学生からは「他職種がどのような観点で患者さんに関わっているのかを知り、新たな気づきがあった」「異なる視点をすり合わせることの難しさと同時に、患者さんの望みを生かすという共通目標を持って議論することの大切さを感じた」などの声が上がった。

IPEは2016年度から開催しているもので、今回が5回目。両大学は19年3月に、教育研究協力に関する包括協定を締結している。